

# ものづくりに込める思いが まちを活性化すると信じて

開校から78年の歴史を持つ高崎産業技術専門学校は、多彩な分野の技術者を育成する県立の職業能力開発校。ものづくりを通して、まちや人々の生活に貢献したいと、生徒たちは日々、勉強と技術習得に励んでいる。

## 1万人以上の技術者を育て 地元企業の発展に貢献

今年3月に公表された平成26年度の群馬県民経済計算によると、県内総生産は8兆55億円となり、5年連続で増加した。好調な経済成長をけん引するのは、製造業や建設業など、県内総生産の約40パーセントを占める第2次産業である。

複数の工業団地を持つ高崎市には、電子部品や輸送機器、金属製品などの製造工場が点在。多くの人々がものづくりに携わり、ま

ちの経済発展に貢献している。

ものづくりの現場では、高精度な機械の導入はもちろん、専門知識を身につけた職人の高度な技術力が最も重要だ。群馬県は、基幹産業のものづくりに特化した技術者を養成するために、前橋市、高崎市、太田市の三方所に県立の産業技術専門学校を設置。その一つが山名町にある高崎産業技術専門学校だ。

昭和14(1939)年、高崎職業紹介所の付属施設として設立した同校は、木工、竹工、染織などの職業訓練の場として発足した。時代の流れとともに変化する技術者の需要に対応しながら、その都度、学科を再編成。平成11年、現在地への移転を機に、製造分野専門の職業能力開発校となった。

現在、塗装システム科と自動車整備科、メタル技術科、機械技術科、住まいづくり科の5科を設置している同校。実習用の機械や機材も多種多様にそろえ、実践的な職業訓練を行っている。すべての科で複数の資格が取得でき、数々の技能コンテストにも挑戦できるなど、生徒の向上心を刺激する工夫も満載。高い就職率が人気を呼び、毎年約1000人の生徒が入学している。

78年の歴史のなかで、多くの技術者を育て続けた同校の修了生は、延べ1万人以上。企業向けのんは、コツコツと地道な作業を積み重ね、身の回りの物をきれいに仕上げる塗装技術が自分の性格に合っていると話す。「下地を削るわずか0.1ミリの差で、仕上がりの良し悪しが決まります」と、塗装の奥深さを教えてくれた。どんなにオートメーション化が進んでも、人でなければ塗れない部分があると、同校に入校して職人の重要性に改めて気付いた。取得した技術を生かし、人々が心地よく過ごせるような美しい空間を作りたいと話す言葉には、強い決意が込められている。

一度はあきらめかけた夢に再チャレンジしたいと、雇用保険を利用して入校した人もいる。自動車整備科に在籍する松本望さんだ。「将来は独立し、海外の輸入パーツを扱えるような整備工場を作りたい」と、3級自動車整備士を目指し、勉強に励む。資格取得はゴールではなく、夢を叶えるための第一歩。進化する自動車技術に対応できるように今後も勉強を続け、地元の人々に安全で楽しいカーライフを提供したいと目を輝かせた。



◀技能検定に向けて実技練習に励むメタル技術科の大野玲奈さん。オープンキャンパスで溶接の実習を体験し、その繊細な技術に魅了された



塗装システム科  
小林寛公さん

自動車整備科  
松本望さん

フリマARで動画が見られます



▲毎年秋に高崎中心街で開催されるゴム動力自動車コンテストでは、社会人チームに競り勝ち3連覇を達成。今年も好成績を目指して製作に励む機械技術科の生徒たち



▲上信電鉄高崎駅構内の待合室は、同校の修了生が電車を改修して作ったもの。観音山ファミリーパークに実習で作った木工道具やベンチを寄贈するなど、地元への社会貢献も積極的に行っている



▲技術を指導する各科の先生たち。「なんでも相談できる気さくな先生が多い」と、生徒からの信頼も厚い

研修を開催するなど、地元企業の技術力向上にも一役かっている。**多くの資格取得に挑戦し  
自分の夢を切り拓く**

さまざまな希望を抱いて、同校に通う生徒たち。それぞれの夢や目標を聞いた。

幼い頃から旋盤加工に従事する祖父の姿を見て育った諸星昭人さんは、高校卒業と同時に機械技術科へ入校。「座学で知識や理論を学んだ後、すぐに実習を体験

できるので、実践的な技術が身につきます」と話す。毎年秋に高崎市街地で行われるゴム動力自動車コンテストにも参加し、ものづくりの楽しさと難しさを実感している。

同校に通う先輩の話聞き、魅力を感じたという堀井聖也さん。体を動かす職業に興味があり、住まいづくり科を選択した。住まいに関する幅広い資格取得を目指すなかで、「いろいろな実習を体験できるのが楽しいです」と、仲

間とともに汗を流す。

飛び散る火花に動じることなく溶接実習に挑む大野玲奈さんは、メタル技術科2年生の紅一点。昨年1年間で4種類の溶接関連資格をはじめ、フォークリフトや小型移動式クレーンなど、13種類の資格を取得した。建物や製品の耐久性には溶接技術が影響するだけに、「人々の安全な暮らしを守るために、毎日実技練習に励んでいます」と笑顔を見せた。

塗装システム科の小林寛公さん